

★申し込み方法

※募集は2017年3月21日から4月29日までです。

基本的に4~5名程度でグループをつくり、以下の内容をホームページ上からか、メール・ファクス・封書で事務局に送ってください。児童の参加も歓迎しますが、必ず1名以上の保護者も参加してください。

①グループ名

ご自由にお決めください(過去の参加者は同一名を推奨)。ない場合はリーダーの方のお名前がグループ名になります。結果の公表・記録の際にグループ名を用いますので、個人名が出るのが気になるという方は、グループ名を必ずつけてください。

②リーダーとなる方の氏名

③リーダーの方の郵便番号・住所・電話番号・ファクス番号・電子メールアドレス

事務局から連絡するときに使用します。電子メールが基本となりますので、お持ちの方は正確に書いてください。

④参加者全員の氏名・年齢・性別

⑤希望する調査地名(地名とその市町村名・地図名)

各グループには、居住する市町村周辺か、やってみたい場所を調査してもらいます(複数地区可)。調査したい場所に該当する2万5千分の1の地形図名を書いてください(ホームページでは地図を確認でき

ます)。希望場所は山岳地帯などでも結構です。同一地区に希望が集中した場合は調整を相談することがあります。地形図名がよく分からない方は地名を詳しく書いて、事務局にお問い合わせ下さい。

⑥前回2012年、それ以前の参加の有無

メンバーのどなたかでも参加していれば、「有」としてください。

※調査グループとして事務局で登録しましたら、メールか葉書でグループ番号と事前説明会の日時・場所をお知らせします。

※調査データの著作権は北海道新聞野生生物基金が有りますが、広く公開し、研究等に活用されるようにします。使用したい方は基金にご連絡ください。

※いただいた個人情報は、今回の事業の事務作業と結果のとりまとめにのみ使用します。紙面などにもお名前を出してほしくないという方は、その旨もお書きください。

■注意事項

調査にともなう交通費や写真代・郵送料などは、各グループで負担してください。実施日の簡易野外保険には、一括して事務局で加入しますが、けがやトラブルなどに十分注意してご参加ください。

申込先

ファクス 011-892-5318 メール flower@hokkaido-np.co.jp
ホームページ <http://flowerthon.net/> から申込みページへ



ツイッター (<http://twitter.com/flowerthon>)、フェイスブック(<http://www.facebook.com/flowerthon>)でも情報提供中!

★フラワーソン2017実行委員・地域アドバイザー

●実行委員長 小川 巖 (エコ・ネットワーク代表)

●実行委員

大原昌宏 (北海道大学総合博物館副館長)

金子正美 (酪農学園大学教授)

水島未記 (北海道博物館学芸主幹)

渡辺 修 (さっぽろ自然調査館代表)

矢萩 学 (北海道新聞野生生物基金事務局長)

※ほかに北海道新聞社内実行委員7人

●アドバイザー

札幌 丹羽真一 (さっぽろ自然調査館・札幌市)

山崎真実 (札幌市博物館活動センター学芸員・札幌市)

石狩 内藤華子 (いしかり海辺ファンクラブ理事・石狩市)

胆振東 野村 仁 (苫小牧北光小教諭・苫小牧市)

胆振西 八島道義 (むろらん山遊会会長・室蘭市)

函館 木村マサ子 (北海道アウトドアガイド・函館市)

檜山 加藤一彦 (厚沢部もりもり倶楽部・厚沢部町)

上川 塩田 惇 (旭川帰化植物研究会会長・旭川市)

笠間邦裕 (旭川北邦野草園学芸員・旭川市)

空知 松下健一 (利根別自然休養林研究会事務局・岩見沢市)

留萌 竹内修五郎 (自然観察指導員・留萌市)

後志 池田郁郎 (ペンションふきのとう・ニセコ町)

日高 高橋 誼 (日高の森と海を語る会事務局長・日高町)

十勝 若原正博 (株式会社エコシステム代表・帯広市)

網走 内田暁友 (斜里町立知床博物館学芸員・斜里町)

北見 高岡 潤 (北見市草の会会長・北見市)

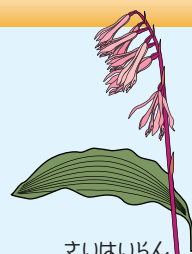
宗谷 小杉和樹 (利尻島自然情報センター主宰・利尻町)

宮本誠一郎 (自然公園指導員、自然写真家・礼文町)

遠島幸吉 (自然愛好グループ「ネイチャーラブ最北」・稚内市)

釧路 高嶋八千代 (植物研究者・釧路市)

根室 高田令子 (ニムオロ自然研究会・根室市)



まいはいらん

第5回

北海道の花をいっせいに調べるイベント

北海道フラワーソン

2017

実施日

6/17(土)・18(日)

(予備期間:6/19~23)

- 参加無料
- どなたでも参加 OK
- 全員に記念品贈呈



さるめんえびね

好きな場所の花を調べて

FAXやホームページから報告!

くわしい調査方法は
5月に行なわれる
各地域ごとの説明会で!

3月下旬から募集開始です
応募はホームページ、メール、FAX、ハガキなどから
応募された方には説明会や
資料などの案内をお送りします*

申込切 4/29(土)

お問い合わせ

ホームページ <http://flowerthon.net/>

メール flower@hokkaido-np.co.jp

電話 011-892-5306

(事務局 さっぽろ自然調査館)



北海道新聞社創業130周年 北海道新聞野生生物基金設立25周年記念事業

主催/北海道新聞社 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 後援/北海道文化放送 エフエム北海道 道新スポーツ 北海道新聞グループ各社

★お問合わせ先

✉電子メール flower@hokkaido-np.co.jp (お電話での問い合わせは、平日10:00~17:00にお願いいたします)

フラワーソン事務局(さっぽろ自然調査館内)

公益財団法人北海道新聞野生生物基金事務局

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル

☎電話 011(892)5306 ☎ファクス 011(892)5318

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6

☎電話 011(210)5773 ☎ファクス 011(210)5774

★ フラワーソンとは

第5回フラワーソンは北海道新聞社創業130周年、北海道新聞野生生物基金設立25周年を記念して行われる事業です。

「フラワーソン」は「フラワー・ウォッチング・マラソン」の略語で、見つけた野鳥の数を競う「バードソン」の“植物版”です。ただし種数を競うことに重点を置くのではなく、活動を通じて環境保護に対する意識を高めるとともに、地域間のつながりを深めることをねらいとしています。1997年に第1回を実施して以来、今回で5回目になります。

北海道全域を約950の地区に分け、6月17日と18日の2日間、その地区に“どんな花が咲いているか”をグループ単位で調べます。調査の対象となるのは、開花している野生種（帰化植物を含む）すべてです。

調査結果は北海道新聞の紙面で紹介するほか、詳しい報告書にまとめ、参加者に配布します。

	第1回 1997年	第2回 2002年	第3回 2007年	第4回 2012年
実施日	6月14・15日	6月15・16日	6月16・17日	6月16・17日
調査地区数	646	521	560	522
報告グループ数	473	353	437	428
参加者数	約2,400	約1,800	約2,600	約3,100
確認開花種数	746	1,089	1,134	1,149

フラワーソンは、1997年以降5年ごとに開催しています。同じ方法で同じ時期に実施しているのが特徴で、毎回北海道の半分以上の地域で調査をしています。



べにはなやましゃくやく

★参加のスケジュール

3月
4月
5月
6月
7月

- ① 参加申し込み

3月21日から4月29日まで
- ② 参加登録

5月上旬まで
- ③ 地域説明会

5月中旬から6月上旬まで
- ④ 調査の実施

6月17・18日(雨天決行)、予備期間 6月19~23日
- ⑤ 結果の報告

調査日から一週間以内(6月末まで)
- ⑥ 結果の集計とまとめ

7月中旬以降

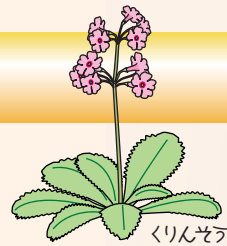
3/21 申し込み・登録

4/29 地域説明会

6/17・18 (6/19-23) 実施

6/30 報告

7月 結果集計



くりんげろ

★ フラワーソンのポイント

☀️ 全道で一斉に!!

広い北海道で、同じ日に同時に花を調べるというほかに例のない行事です。「いま、この花がどこで咲いているのか」「どこが一番花が見られるのか」、大勢の仲間とともに、花をさがして歩きましょう。

🌸 誰でも簡単に!! 学校単位で参加しよう!

草花が好きな方なら、どなたでも参加できます。身近に見られる花を報告してください。



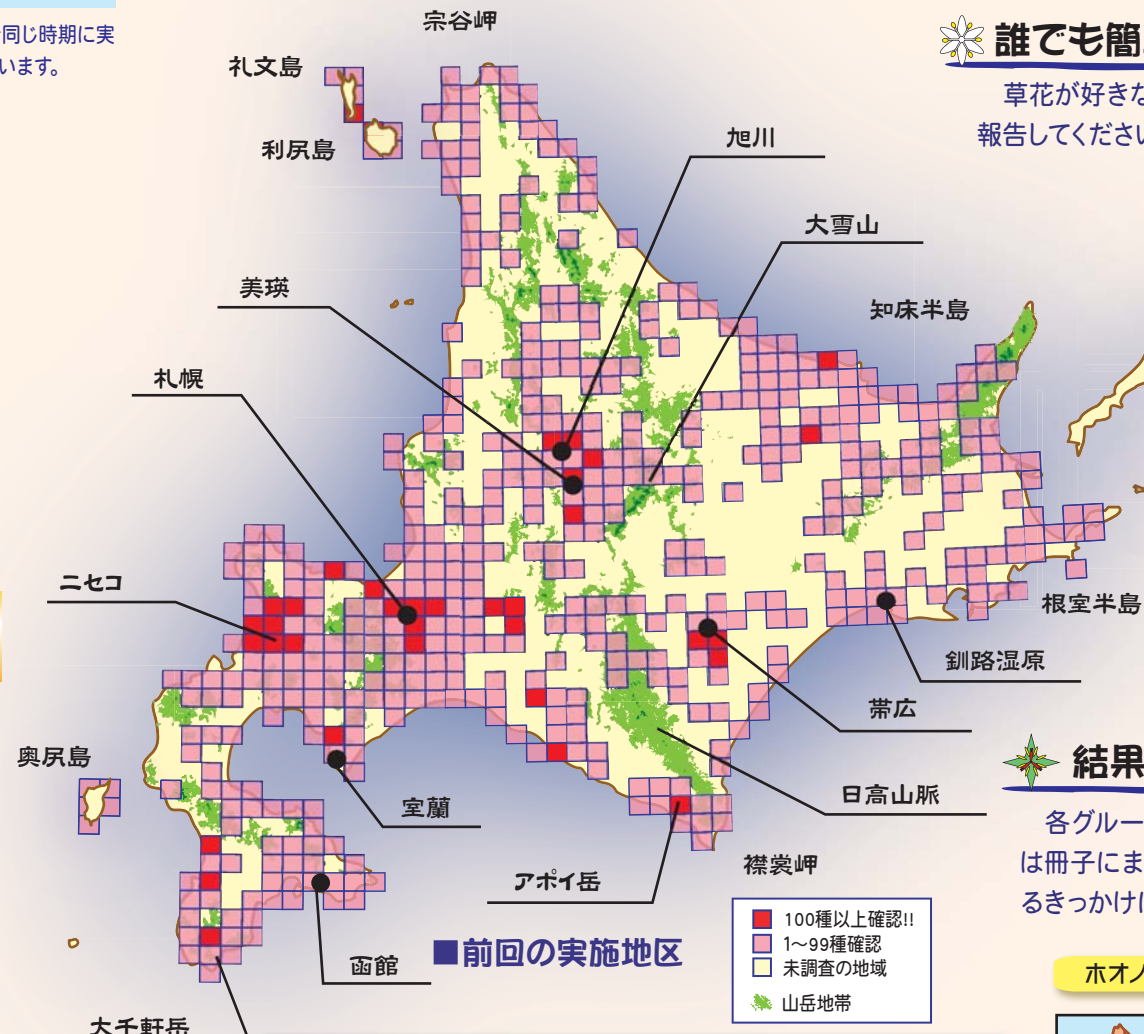
くまのおう

ひおうぎあやめ

🌸 北海道の自然情報集めに!!

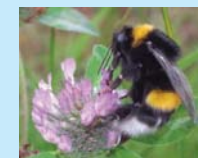
同じ方法で5年ごとに調査することによって、野生植物の現状や環境の変化を把握するのに役立ちます。

ホームページでは集計結果がすぐに見られる!



🌸 花を訪れるハチやチョウも報告を!!

前年に引き続き、ハチやチョウの報告もいただけます。野生植物への悪影響が心配されている外来種セイヨウオオマルハナバチの確認も実施します。ぜひチャレンジしてみてください。



🌿 結果を記念に、身近な自然を考えよう!!

各グループの結果は記念シートとして整理して返却し、全体の結果は冊子にまとめられます。身近な自然の現状や大切さについて、考えるきっかけにしてください。

ホオノキの変化

1997年: 開花中

2002年: 開花中

エゾカンゾウ

咲き終わり

つぼみ

■これまでの結果の例
ホオノキは、1997年には西南部でのみ開花していたが、季節の進みが早かった2002年には全道で咲いていた。エゾカンゾウは海岸などの草原に分布している。

★ 調査の方法

- 2017年(平成29年) **6月17日(土)・18日(日)** の2日間に全道一斉に実施します。(休日活動できない団体や悪天候への対応として、**19日以降の5日間**を予備期間とします)
- **一般調査**と**特定種調査**の2タイプの調査を同時に行います。**一般調査**では、担当地区で咲いている花をできるだけ多く記録します。**特定種調査**では、指定された10種類の植物の有無と開花状況を記録します。
- **2万5千分の1地形図**を単位とした約950の地区に北海道を区分し、それぞれの地区ごとに調査します(複数地区可)。
- **特定種調査**は、**学校や子ども達のグループ**単位で参加しやすい**専用の用紙・三二図鑑**も準備します。ホームページ等の活用と合わせて、身近な自然の記録を残せるよう、支援します。

■ 特定種調査シート

